

－ 平成28年度事業報告及び収支実績について －

1. 概況

- 平成28年度は大震災後6年目で、津波の被害を受けた沿岸部についても、復興の姿がやっと見えるようになってまいりました。勿論、箱物が完成したからと言って復興終了というわけではなく、時間の経過と共にこれまで埋もれていた少子高齢化問題、過疎化問題など様々な社会的問題が、表面に出てきて復興の進展にいろいろな影響を与えるようになってまいりました。一方、まだ行方不明者が2553名も残っており、かつ震災関連死が少なくはなっておりますが3523名のぼり、避難者も12万人を超えております。傷跡はまだ深く、被災者のマインドの面からも回復は道半ばと言わざるを得ません。
- 全国の倒産件数は、8年連続で前年を下回り、1990年以来の低水準となっております。要因としては、上向きの景気や、金融機関が中小企業のリスク要請に積極的に対応していると分析しておりますが、この地域では、なかなか実感できずにあります。東北に限定すれば倒産件数は、前年比8,7%増の348社で、中でも宮城(13%)、福島(47%)、秋田(16,6%)、岩手(2,2%)が増加しました。倒産件数は、昨年減少したのでこの傾向が続くかと思いましたが、一転増加に転じました。全国の数字が減少する中で、東北、中部、北陸地区が増加しており、首都圏を中心とした国の傾向との違いが明確になってきております。
- 県内経済の動きとしては、震災復興需要がピークアウトしており、一部に弱い動きがみられるものの、経済活動は総じて高水準で推移しており、基調としては穏やかに回復しているとされております。
- 3月に実施した工業会アンケートでは、130社の会員様から回答がありましたが、震災時との比較で、売り上げ増が51%を超え(横這いを入れると78%)、利益増も54%(横這いを入れると85%)と順調に復興しているように推察されます。また、前年度比においても、売り上げ増が38%、利益増が37%と着実に伸長しております。
一方、経営課題としては、昨年行ったアンケート辺りから「人材」が問題視されるようになりました。今回人材確保については84の会員企業が、育成に関しては64の会員企業が、重要な問題点と捉えており、前年度に引き続きさらに多くの企業で「人材」が大きな経営課題となりつつあるという状況が窺えます。

【会員数推移】

石巻地区の理事の積極的活動もあり、15社(個人会員含む)入会がありました。一方震災等の影響もあり、9社が退会されました。中には、長年会員を継続していただいております企業もあり、残念な状況ではあります。

【委員会活動】

今年度は、工業会として30周年記念事業が大きなテーマであったため、総務、交流

推進、情報委員会に関しては、企画含めいろいろ検討していただきました。

(1) 政策委員会

台風の影響や、委員長の会社事情により、委員会開催が大幅に遅れましたが、新規事業の検討や、若手経営者部会の発足準備、ビジネスマッチング部会等の活動は、順調に遂行されました。副知事懇談会については、次年度早めの開催を目指して検討されました。

(2) 総務委員会

定時総会に向けての理事会、総会の上程事項についてのチェックの他、今年度は役員改選・委員会委員の改選期に当たっていたため、その事務処理についても検証を行い、滞りなく、新体制が発足しました。また30周年事業については、費用を含む全体像につき検討しました。規程類については、会員の中に新たに「個人会員」の項目を追加いたしました。

(3) 交流推進委員会

産学官交流大会・30周年記念事業の中身につき、委員会の中でいろいろ意見交換し、より多くの会員に参加してもらえるよう検討いたしました。企業紹介のパネル展示等は新たな取り組みとして企画しましたが、好評でした。

(4) 技術交流委員会

企業見学会については、8月に県内企業見学会（サンドビクツーリングサプライジヤパン、積水ハウス、原田伸銅所）、12月に県外企業見学会（山形県 天童木工、タカハタ電子）を開催し、多くの会員に参加していただきいずれも好評でありました。その他委員会の中で新しい材料、技術等に関する勉強会を開催しました（セルロースナノファイバー〈CNF〉他）。フォロー委員会として、みやぎ優れMONO発信事業の活動に参加いたしました。

(5) 情報委員会

定期機関誌（MIA REPORT）を例年通り2回刊行（11月、3月）しました。また、30周年記念事業の一環としての30年誌を刊行すべく、その中身につき検討し、これも3月に完成いたしました。HPの中身について毎回検討しており、より閲覧してもらえる中身をめざしました。

(6) 経営基盤委員会

昨年以來、人材確保が企業にとって大きな問題となりつつあり、ひと、もの、金を扱う委員会として、各社の対応等も意見交換しながら人材確保の方策を検討しました。また、フォロー委員会としてプロフェッショナル人材戦略拠点事業の進捗につき報告をいただき、意見交換をいたしました。また、電力問題につき、東北電力宮城支店さまのご協力により、2月に女川原子力発電所の見学会を開催しました。

【30周年記念事業】

11月14日（月）仙台国際センター会議棟、展示棟にて30周年記念式典と第55回産学官交流大会を開催いたしました。

- ・記念式典 祝辞・功労者表彰
- ・特別講演 「蚊が媒介する感染症について」
国立感染症研究所 所長 倉根一郎 氏
「逆境をチャンスに変える攻めの経営」
オオアサ電子株式会社 代表取締役社長 長田克司 氏
- ・情報交流会
- ・企業紹介パネル展示 企業 64 学校・支援機関 17

【会員企業訪問】

石巻地区を中心に17社訪問。この結果、6社が新規で入会していただいた。下期は、30周年記念事業もあり、事務局の都合で思うように訪問ができなかった。

【その他】

- 7月に熊本工業会を訪問、工業会と会員企業からの義援金（160万円強）を贈呈
- 9月に北海道機械工業会の役員が来県、企業訪問（トヨタ東日本、キョーユ一）も
行い、工業会役員と交流
- 企業紹介セミナーを東北学院大学工学部にて開催。募集に応じた工業会会員14社
が参加
- その他、下記の事業を主催・共催いたしました
 1. おおさき産業フェア
 2. 登米産業フェスティバル
 3. ビジネスマッチ東北2.016
 4. 仙南広域工業会 ものづくり展示交流会
 5. 産学連携フェア
 6. 宮城県高度電子機械人材育成センターによる研修

【受託事業】

（1）みやぎ優れMONO発信事業

今年度より、県の受託事業からは外れましたが、優れMONO実行委員会からの委託により工業会が引き続き受託しました。本事業に対する県内の認知度も年々高まっており、何とか今後もこの活動を継続できるような仕組みを検討してまいります。今年度認定製品6個を含め、これまでの認定製品数は、47個にのびりました。

（2）プロフェッショナル人材戦略拠点事業

一昨年後半からスタートした本事業は、本年度から本格的活動を行い、担当者の積極的な企業訪問により成果を上げてきております。県内の企業環境として人材確保、人材育成が経営課題のトップになりつつある中で、更なる実績を上げるべくきめの細かい対

応をお願いしたいと思います。

企業訪問数：約250社 プロ人材採用数：35名（全国10位）／H29年3月末現在

（3）航空機共同受注体事務局事業

予算上は、関連売り上げ前年度比2.5倍を目指しましたが、最終的には2倍強にとどまりそうではありますが、大幅増です。航空機関連の展示会出展含め、他地区の航空機産業の企業等も訪問、また必要なセミナーを開催するなど幅広く活動しました。

II. 会員状況

区分	平成27年度末現在	平成28年度末現在	増減	備考
正会員	344	350	6	入会15社、退会9社
賛助会員	35	33	△2	退会2社
計	379	383	4	
顧問	12	12		
特別会員	18	18		
合計	409	413	4	